

平成 28 年 12 月 6 日

広島大学理事（教育・東千田担当） 宮谷 真人 殿
広島大学附属学校園長 各位

広島大学附属学校園評価委員会

平成 28 年度附属学校園の評価に関わる総括提言

当委員会は、平成 23 年度以来、今年度で 6 年目の活動を進めてきている。本年度は 6 月から会合をもち、その会合は 8 回を数えた。本年度の調査では、平成 27 年度に提出された改善計画及び各附属学校園の第 3 期中期目標・中期計画・年度計画の進捗状況、「チーム学校」としての協働体制・組織作り、校園長のリーダーシップを主な調査内容として、表簿（出勤簿、出席簿、指導要録（学籍・指導）、学校沿革史、旅行命令簿、学校要覧、校務運営規定、学校日誌、保健日誌、もしくは以上に代わるもの）の提出、各附属学校園の第 3 期中期目標・中期計画・年度計画、各学校園の経営方針、学校として定めておくべき計画や方針（学校教育法、学校保健安全法、いじめ防止対策推進法などで定められたもの）、財務の決算資料、教科別教員（非常勤講師等を含む）の受け持ち時間などの資料の提出により、各学校園の実地調査を実施した。

各学校園から、昨年度以来の改善・改革点、その経過と結果、勤務・財務状況の報告を受けるとともに、改善・改革の具体を聴取し、別紙により各学校園への調査報告書を提示した。また、各学校園には、調査報告書提示の後、約 1 月をもって、改善計画のプランを提出するように要請した。

本総括提言は、21 世紀の学校戦略、学校運営・経営の方針とその実現、校園長・副校園長のリーダーシップ、「チーム学校」と表される学校づくり、人材育成、教育・研究、施設・設備、保護者・地域社会との関係、財務状況、情報発信・広報、職務時間・健康管理、表簿の設置、また上級学校、広島大学や各学部・研究科との関係などの項目に関して、各学校園、大学本部及び附属学校支援グループ、各学部・研究科への更なる改善点と要望を取りまとめたものである。

I 各学校園の改善状況（総括）

各学校園とも、昨年度から今年度にかけて、総括提言や各学校園の調査報告書に基づき、学校運営・経営、校園長・副校園長のリーダーシップ、学校づくり・カリキュラム、教育研究、保護者・地域社会との関係、また、広島大学や各学部・研究科との関係などに関して、改善が認められた。

特に、評価できる点は次のものである。

1) 校園長や副校園長のリーダーシップが発揮され、各学校園が特色ある教育研

究を進める体制になりつつあること

2) 各学校園の教育と研究の推進が見られたこと、特に、教育では、各学校園での教育目標、教育方針の明確化、研究では、すべての学校園が研究指定校を受け、各学校の研究目標を設定し、新たな研究に取り組んでいること

3) 広島大学はもとより、現代の教育課題となっているグローバル化対応に多くの学校園が英語教育の充実、外国の学校との交流、児童・生徒の相互訪問を計画・実施し、教育課題に応えるとともに、児童生徒のグローバル時代に求められる人材の育成を図っていること

4) 法的に必要な表簿がほぼ全学校園で設置・整備されつつあること

5) いくつかの学校園では、社会をはじめ、保護者、関係者への情報発信が推進されたこと。とくに、英語版学校園案内（ハンドブック）、スクールブログやHPの充実が図られたこと

以上、それぞれの学校園の改革・改善に関しては、他校園においても参考になると判断できる取り組みもあり、それらは附属学校園間で積極的に共有し、活用することが望まれる。

II 各学校園に更なる改善を願う点

本年度の各学校園の調査を通して、本委員会が痛感し、早急に改善すべきことは、戦略的経営と教育構想、教職員の人材育成・研修体制、教職員の労務管理、児童・生徒の健康、危機管理体制、財務状況の改善の6点である。

まずはこれらの課題を改善点として指摘したい。

1) 戦略的経営と教育構想

① 21世紀の教育は、改革が求められている。それは、与えられた教育課題を児童・生徒に提示し、それを解決させるだけではなく、児童・生徒が自ら課題を見つけ、それを解決することができる人材に育て、21世紀の社会を推進する担い手にすることである。次期学習指導要領改訂でも、同様に教育改革が求められており、各学校園もそれを推進することが要請されている。

② 各学校園はそれぞれ、独自の教育目標・方針を持ち、校園長のリーダーシップの下、第3期中期教育計画を踏まえ、各年度の教育課題と達成すべき目標を設定していることは評価したい。

③ しかしながら、多くの学校園が、従来の学校の理念、校訓にしたがい、これまでの当該の学校園像、それもその学校園側から見たものにおいても、社会の側から見たものにおいても、今までの固定的なものに安住し、新たな方向性や展望を持っていないところが見られる。

④ 10年後、20年後を見据えた各学校園の大きな戦略の上に、各学校園の教育の方向性、教育目標・方針が置かれておらず、長期展望のない目標や方針の設定になっているとともに、21世紀において各学校園が広島県、全国で果たすべき役割と任務が明確でないまま、年度ごとの改善に留まっている。

⑤ 各学校園が長期展望を持ち、教職員がその展望とともに、21世紀の各学校園の

教育の方向性を共有し、各部署、役割を果たし、学校園がチームとなってその教育構想を実現に向け取り組んでいただきたい。

2) 教職員の人材育成・研修体制と「チーム学校」づくり

- ① 各学校園とも、教職員の定数が限られている一方で、学校園間の人事交流の必要性から、教職員の人材育成はどの学校園でも急務な課題である。
- ② 教職員誰もがミドルリーダーになるという意識を作り出し、各教職員が各学校園の教育展望や目標の実現に向け、リーダーとなって推進するように、各学校園とともに、学校園相互の協力、また附属学校支援グループの支援のもと、研修体制を確立し、人材育成を図っていただきたい。
- ③ 学校マネジメントは、学校園長だけではなく、すべての教職員が身に付け、発揮すべきものである。教科、クラス、学年、各教育領域、どれも計画、実行、改善を必要としており、マネジメントが欠かせないものである。教職員が関わる教育のどの領域もマネジメントが必要であることを念頭において、学校園のあらゆる活動が大きなマネジメントの中に包括し、いずれの教育活動も全体の見通しの下に進み、より良い改善と進展に向けられるようにしていただきたい。
- ④ 学校マネジメントは学校づくりの基礎である。特に、現在いずれの学校園にも要請されている「チーム学校」づくりは喫緊の課題の一つである。学校マネジメントを教職員全員の下において、いずれの学校園も「チーム学校」を進め、各学校園の教育の実現を図っていただきたい。
- ⑤ 研修体制は、学校園の教育理念、方針のもとに、計画され、実施されるべきである。研修には、学校内だけではなく、他学校園、附属学校支援グループ、大学が進めるもの、学校外、たとえば、広島県教育委員会、教育センターで進めるものを利用して行うことができる。新任、中堅を問わず、各教職員が研修を通して、それぞれの教職能力とマネジメント能力を向上させ、各学校園の中心的に担い手になっていただきたい。

3) 教職員の労務管理

- ① どの学校園の教職員にも、超過勤務が見られ、各教職員の心身の健康状態に憂慮するところである。
- ② 週の特定日には、教職員を一斉に、特定時間に、退校させるよう図ったり、仕事分担の重なりを少なくし、一人当たりの仕事量を減らすなどの措置をしたりして、勤務時間が長時間にならないようにしていただきたい。
- ③ 教職員の勤務に関わり、学校の体制やカリキュラムの点検も行っていただきたい。各教職員の負担の軽減を図るために、校務分掌、行事などのカリキュラムを見直し、より効果的なものに改善していただきたい。

4) 児童・生徒の健康

- ① 表簿の記載事項から、いくつかの学校園では、長期欠席の児童・生徒、よく遅刻したり、保健室に繰り返し入室したりする児童・生徒が見受けられる。
- ② 表簿や教職員・保護者との情報交換を通して、児童・生徒の心身の健康管理状態の具体的把握に努めるとともに、そのような児童・生徒への速やかな対応を

講じ、長期化、あるいは、悪化しないように、早め早めの対応をお願いしたい。

5) 危機管理体制

- ① 教職員、児童・生徒の心身の健康・安全も重要な危機管理の1つであるが、それ以外にも、安全・安心を基本にした、学校全体の危機管理体制の確保が望まれる。
- ② 特に、児童・生徒のその日その日の状況、また1週間、月、学期など、区切りの時期における状況把握は欠かせないものである。またその状況確認が関係者にとどまらず、学校園の教職員が共有化し、状況把握に努め、相互に連携しながら、より良い学校環境づくりに協力し合う体制を作っていただきたい。
- ③ 教職員自身の健康管理にも十分配慮し、教育活動の充実も大事であるが、増やすことだけではなく、学校活動全体の効果の観点から、短縮、あるいは、行事の精選を行っていただきたい。

6) 財務状況の改善

- ① 財務管理が、裁量制になったが、その利点を生かすことなく、従来の会計配分を踏襲している学校園が見受けられる。
- ② 学校園長の教育構想、目標に応じて、裁量制の長所を活用し、傾斜配分をしたり、重点配分をしたり、財務マネジメントを施し、年度ごと、また、数年度の計画実行が速やかになされ、達成が図られるように工夫をしていただきたい。

このほかにも、改善していただきたいことを挙げておきたい。

7) 広島大学への貢献

- ① 各学校園は、広島大学附属として広島大学の一員である。
- ② 各学校園は広島大学への貢献を図り、その存在を明らかにするとともに、高めてほしい。
- ③ そのためにも、広島大学、また、研究科や学部、教員との連携を進め、広島大学の活用とそれへの貢献を図ってほしい。
- ④ 特に、広島大学が大学全体で取り組んでいるグローバル化、国際化、平和の推進などの現代の教育課題に貢献するようにしてほしい。

8) 地域、学校、教育関係機関等との連携

- ① 現在、学校は学校だけで、完結することは難しく、地域や関係機関との協力の下でしか成り立たない状況にある。
- ② 保護者、地域社会との協力、また、教育関係機関等との結びつき、さらには、学校園間の連携が要請されており、それらの連携の下で、物的、人的なリソースを活用して、各学校園の教育目標の実現を図ることが必要とされている。
- ③ 社会的リソースの活用を図って、各学校園の教育目標の実現、特に、児童生徒の資質・能力の育成のより速やかで、またより高度な達成を図っていただきたい。

9) 広報、社会発信

- ① 学校園のHP、また、諸々の情報を発信しているが、適時行うとともに、充実を図っていただきたい。

- ② とりわけ、学校要覧，その英文版，学校園 HP の特色づくり，スクールブログなどを活用した随時の情報提示など，保護者，地域社会，教育関係者に効果的な発信を心がけてほしい。

10) 表簿の設置・活用

- ① 表簿の設置は法令等により義務付けられている。その意図は，それでもって，学校の管理・経営，日々の状況把握をするため，である。
- ② 表簿の設置意図を再度意識して，すべての学校園が必要なものを再整理し，それを活用して，学校のマネジメントに生かしていただきたい。

Ⅲ 大学本部・理事・副理事・附属学校支援グループに改善を願う点

一昨年度以来，次の 5 点は，大学本部・理事・副理事・附属学校支援グループに繰り返し，改善をお願いしている点である。本年度も改善をお願いしたい。

1) 附属学校園への配慮

- ① 附属学校園は，就学前教育・初等教育・中等教育を進めるものであり，高等教育よりも一段高い配慮と支援を必要としている。この点に関して十分な配慮と支援を行っていただきたい。
- ② 附属学校園は，附属学校園としての使命を果たすべく，大学教育の一環としての機能とともに，それぞれ独自の役割を進めている。各学校園の役割と機能を理解し，それぞれの学校園が特色ある学校園づくりが可能な環境整備と支援を進めていただきたい
- ③ 特に，多くの学校園において校舎，施設・設備の老朽化が進んでおり，園児・児童・生徒の安全面を脅かす事態になりかねない。各学校園からの施設・設備の改善には，これまで以上に速やかに対応してほしい。
- ④ 新採用教員の教育実習の合同事前説明会，合同の附属学校園研究会など，教員へのケア，また，附属学校園の協力を促進させる機会を増やしていただきたい。特に，附属学校支援グループ，また大学としても，各学校園及び学校外での研修体制の充実への支援をお願いしたい。たとえば，民間の研修の仕方やその内容も参考にしていきたい。

2) 予算措置の充実

各学校園の使命や目標を達成するための教育・研究の促進，老朽化している校舎・施設・設備の改善のために，各学校園への予算を大幅に増額し，子どもたちが安全で安心して教育を受けることができる状態にするとともに，設備の充実を図っていただきたい。

3) 人事交流問題と人材育成のための研修体制への支援

各学校園の人事がここ数年，継続的に行われ，教育委員会との交流，附属学校園間の交流が促進されている。大学の理事や副理事は各学校園の人事構想を理解するとともに，各教育委員会と話し合い，お互いがメリットになるように，支援していただきたい。また，ミドルリーダー研修体制や，学校を超えた教科（間）の研修体制など，各学校園における効果的な研修体制の充実に支援をお願いしたい。

4) 各学部・研究科へ要望

教育学部・教育学研究科を始め、各学部・研究科は教育実習、研究会、SSH や SGH の推進を中心にして、これまでも各学校園と密接な関係があり、いくつかの学部と研究科は各学校園の教育・研究活動に協力・支援をしていただいていた。これからも全ての学部・研究科に継続して協力と支援をしていただくとともに、それを強化し、相互の関係をより充実したものにしていただきたい。

5) 教育実習に関する関係部署における改善

- ① 附属学校園の新任教員が各学校園の教育・研究にスムーズに馴染み、円滑な教育実習指導を展開できるように、各学校園とともに、研究科や附属学校支援グループにおいて、支援し、新任教員対象の事前教育の体制への支援を構築し実施していただきたい。
- ② 幼稚園教育実習においても、小学校、中・高等学校教育実習と同様、事前の観察実習などを導入していただきたい。

6) 次年度の評価委員会の实地調査や推進などへの要望

- ① 表簿など必置のものを設置するように指導し、点検していただきたい。
- ② 各学校園の規律、教職員勤務時間の確認をしていただきたい。
- ③ 附属学校園間の情報交流の推進を図っていただきたい。

IV 総括提言の公開について

平成 29 年 3 月開催の拡大校園長会議にて委員長から校園長、副校園長に説明した後に公開する。

広島大学附属学校評価委員会

- | | |
|------|------------------------------------|
| 委員長 | 池野 範男 (教育学研究科教授) |
| 副委員長 | 井上 京子 (附属学校再編計画室長) |
| 委員 | 佐々木哲夫 (教育学研究科准教授) |
| 同 | 地藏堂 聡 (附属学校支援グループリーダー) |
| 同 | 西本 正頼 (教育学研究科准教授) |
| 同 | 松浦 伸和 (副理事 (附属学校・教員養成担当)・教育学研究科教授) |
| 同 | 松岡 誠治 (広島県教育委員会学校経営支援課長) |